



2021年11月20日～21日



GR 86/BRZレース プロフェッショナルシリーズ第11戦

5か月ぶりの86/BRZレースとなった
中山雄一選手、予選は5番手、決勝でも
8位に入り、最終大会で入賞果たす！

富士スピードウェイ(静岡県)

晴れ 10周 (33台)

中山雄一 予選5番手/決勝8位

チーフエンジニア:

高橋 雄大

チーフメカニック:

清水修

8大会・全11戦で開催される、GR 86/BRZ レース プロフェッショナルシリーズに IBARAKI TOYOPET RACING TEAM は、「茨城トヨペット GR つくば 86R」で中山雄一選手を擁し、本来ならばうち6大会に参戦を予定していた。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大によって、延期や中止された大会があったため、中山選手のスケジュールが合わず、11月20～21日に富士スピードウェイで行われる最終大会が、第3大会オートポリス以来の参戦機会となった。

また、来シーズンから新型 GR86 (ZN8) によって競われることから、初代 86 (ZN6) による最後のレースということもあり、まさに『有終の美』を飾ることも期待された。5か月ぶりのレースということもあって、レースウィークの木曜日から走行を開始。まずは勘を取り戻してもらうこととなった。リハビリは順調に進み、走行を重ねるごとタイムは短縮されていく。そして最終確認の機会となる、金曜日午後の専有走行では2分3秒692をマークして、トップと1秒遅れず12番手につけていた。

そして迎えた公式予選、15分間の計測のうち中山選手は、ほぼ折り返しのタイミングでピットを離れ、アタックを行うこととなった。絶妙な間隔でスリップストリームが使えた中山選手は1周をしっかりとまとめて、2分3秒484をマーク。その時点での2番手につけることに。その後、チェッカー間際にタイムを出してきたドライバーもいたため、いったんは6番手につけたが、3番手のドライバーに走路外走行があり、当該タイムが採用されなかったことから、ひとつ順位を上げ、中山選手は5番手の好位置から決勝に臨むこととなった。



「今シーズン、スーパーフォーミュラに出ることになって、チームにはだいぶ迷惑をかけて、スケジュールもなかなか決まらない中で、メカニックの皆さんが頑張ってくれたので、しっかり結果が出せました。しかも BS 勢の 2 番手だったので、いい結果だと思っています。明日は今シーズン初の順位でポイントを獲得のと、表彰台にはまだ 1 回も上げていないので、そこを目指して頑張っていきたいと思います」

(中山雄一選手)

日曜日の午後から雨が降る……という天気予報は、うまい具合に外れて決勝はドライコンディションがキープされた。好スタートを切った中山選手だったが、1 コーナーで痛恨のオーバーシュートが。それでも大きく順位を落とすことなく、4 番手を争う集団の中で立ち上がっていく。必死に食らいついていった中山選手ながら、ストレートでの一伸びを欠き、2 周目に 1 台の先行を許した後は単独走行に。それでも後続は引き離してポジションを最後までキープ。

その結果、8 位でフィニッシュしてポイント獲得に成功。表彰台に上ることはできなかったものの、目標のひとつは達成してシーズンの幕を閉じることとなった。

「スタートは加速も良くて上位に食いついていけたのですが、1 コーナーでスーパーアンダーを出して曲がりきれないぐらいだったのが痛かったですね。トップグループとは明らかなクルマの差を感じて、ストレートで全部置いていかれた感じです。でも最低限の仕事は、ポイント獲れたので良かったです。とりあえず最後にいいレースができたと思います。」

(中山雄一選手)



今大会はまた、併催の Yaris Cup 東日本シリーズ最終戦に、木村貴洋選手がスポット参戦。88 台が予選に出走し、そのうち 45 台しか決勝に残れぬ激戦の中、金曜日に初めてマシンに乗ったとあっては、さすがに練習不足は否めず。2 分 18 秒 293 を記すも、B 組 29 番手となり、コンソレーション出場となった。



「以前レースに出ていたのは 2015 年、16 年なので、かれこれ 6 年ほど。昨日、初めて Yaris に乗ったんですけど、なんとか慣れてきたところで終わっちゃいました。予選もギリギリ通らず。コンソレ行っちゃったんですけど、最終戦で皆さん速いから仕方ないですね」

(木村貴洋選手)

4周で争われるコンソレーションに、「GRつくば AQUA プロμYaris」をドライブする木村選手は3列目、6番手のグリッドから臨み、好スタートを切って5番手に浮上。3周目まではトップグループのしんがりりで周回を重ねていく。最終ラップには上位3台からは離されてしまうが、前後をライバルがピタリと着く状態にも、ミスのない走りでポジションを守り抜く。

結果、5位でゴールし、レース中のベストタイム、2分17秒614は予選タイムを上回っただけに、次のチャレンジが大いに楽しみだ。

「無事にスタート決められて良かったです。ごちゃごちゃしているところを、綺麗に並んで、うまく立ち上がることができたので1台抜くことができました。皆さんきれいなレースをしてくれたので、無傷でなかなか楽しませていただきました。お声をかけていただければ、またやりたいと思います」

(木村貴洋選手)

